

夢に向かって生きる



大和北小だより
R3. 4. 26

ちょっと緊張した「こんにちは会」

1年生が入学して2週間がたちました。少しずつ小学校の生活にも慣れ、これまでとは違う友達もできました。授業も始まり、国語や算数など、新しい教科書を使って勉強しています。はじめはじっと座っているのが難しかったけれど、今では先生の話静静地に聞き、お話も大きな声でできるようになってきました。

19日には「こんにちは会」があり、全校の前で大きな声で自分の名前を言うことができました。また、北っ子班では、縦割り班のお兄さん・お姉さんと楽しく遊ぶことができました。掃除も一緒にやり始めました。大和北小学校の一員として、どんどんできることが増えてきて、毎日の成長が楽しみです。



花のアーチをくぐって入場しました



緊張したけど全校の前で大きな声で言えました



北っ子班で楽しく遊べました。メダルのプレゼントももらいました。

短歌詠み始めの会

大和町の伝統でもある短歌。今年は「短歌詠み始めの会」として、大和町がなぜ短歌を大切にしているのか、また、その歴史を知ってから短歌学習に取り組むことにしました。

今から800年前、承久の乱という、サムライたちの大きな戦いがありました。その戦いで活躍した「東胤行（とうのたねゆき）」というサムライとその一族が、大和町を中心に郡上の大部分を支配するようになりました。東一族の郡上支配の中心となったのが、篠脇城です。山の上につくられた城です。その現在の姿を見てみましょう。56年生のみなさん、見覚えのある景色ですね？そう、フィールドミュージアムです。遠足で行きましたね。城は、山の上にあります。皆さんが楽しそうに遊んでいたあの広場には、東一族の屋敷がありました。皆さんが遊んだ池は、当時のままの状態で見え、保存されているものです。屋敷の跡からは、茶道に使われた道具や、当時のお金などが見つかっています。東一族は、戦うだけのサムライではなく、文化的にも豊かな生活を送っていたのです。特に短歌にすぐれた才能を発揮し、国が作った古い短歌の本にも、東一族の作った短歌がたくさん載っています。中でも有名なのが、東常縁（とうのつねより）という人です。郡上かるたの「わ」みなさん、言えますね？「和歌で還った篠脇城」今から550年ほど前に起きた「応仁の乱」という戦いで、篠脇城を留守にしていた常縁は、自分の城、篠脇城を、斎藤妙椿（さいとうみょうちん）というサムライに奪われてしまいました。留守中に城を奪われた悲しみを、常縁は短歌にしました。「あるが内（うち）に かかる世をしも 見たりけり 人の昔の なおも恋しき」この歌に感動した斎藤妙椿は、自分のために読んでくれた短歌と引き換えに、奪った篠脇城を常縁に返したといひます。常縁の作った短歌には、城にもまさる価値があったということですね。郡上かるたの「つ」みなさん、言えますね？「常縁さずけた古今伝授」ですね。常縁は、短歌をつくるだけでなく、それまでにつくられた短歌の研究者としてもすぐれていました。当時、短歌を研究するということは、「古今和歌集」と呼ばれる短歌の本を研究することでした。その研究で最も優れていた人の一人が常縁だと言われています。「古今伝授」とは、古今和歌集にのっている短歌の意味を、師匠から弟子へと伝えることを言います。その古今伝授が、常縁によって、この大和町で行われたのです。常縁によって弟子へと伝えられた古今和歌集の意味は、その後、日本各地へと広がっていきました。大和町が古今伝授の里と呼ばれるのは、そのためなのです。大和町は、昔から短歌とのつながりが深い町だったのです。私たちのお父さんのお父さん、そしてそのまたお父さんも。ずっと大切にしてきた短歌。私たちも大切にしていきたいですね。それでは、今年度の短歌の読みはじめです。今年度も、短歌を楽しみ、たくさん作品を作っていきましょう。

(発表原稿の原文のまま)



☆授業参観・PTA 総会等、ありがとうございました。総会でもお知らせした通り、北小学校では、ICT を活用した授業をどんどん取り入れています。今後は3年生以上の子どもたちにも、一人一台 iPad が配布されます。

